

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2008-136827

(P2008-136827A)

(43) 公開日 平成20年6月19日(2008.6.19)

(51) Int.Cl.
A47G 19/22 (2006.01)F1
A47G 19/22

R

テーマコード (参考)
3B001

審査請求 未請求 請求項の数 2 書面 (全 5 頁)

(21) 出願番号 特願2006-357045 (P2006-357045)
(22) 出願日 平成18年12月4日 (2006.12.4)(71) 出願人 505253330
桂島 英理子
東京都三鷹市井の頭3丁目27番11号
(72) 発明者 桂島 英理子
東京都三鷹市井の頭3丁目27番11号
Fターム(参考) 3B001 AA40 CC21

(54) 【発明の名称】 容器の吊り下げ具

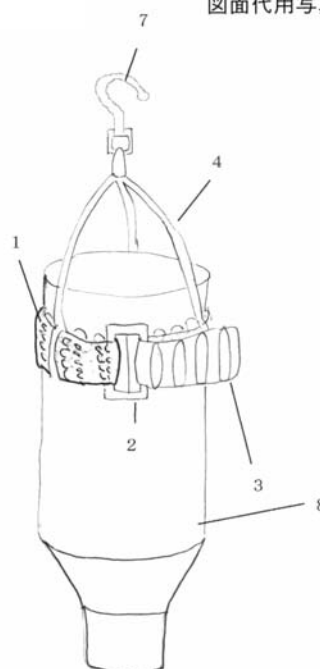
(57) 【要約】

【課題】 哺乳瓶・ペットボトル・コップ・水筒・のような内部を布巾で、拭いて乾燥させることのできない口の狭い容器を吊り下げ、乾燥させるため、どのような形態の容器にも容易に操作し装着し、容器サイズに自在適応できて、かつ、持ち運びに嵩張らない容器の吊り下げ具を提供する。

【解決手段】 柔軟な帯（１）の片面に滑り止め材（２）を設ける。そしてその一端を環（３）に縫着する。一端を環にした紐（４）を柔軟な帯（１）に、数箇所通し、もう一端にＪ形鉤（７）又、カラビナ、吸盤などを取り付けて、どこにでも吊り下げられる様にしたものを特徴とする。

【選択図】 図１

図面代用写真(カラー)



【特許請求の範囲】

【請求項 1】

哺乳瓶・ペットボトル・コップ・水筒・のような内部を布巾で、拭いて乾燥させることのできない口の狭い容器を吊り下げ、乾燥させるため、柔軟な帯（１）の片面に滑り止め材（２）を塗着し、その一端を環（３）に逢着し、その帯に輪（４）を設けた紐をかけて、かぎ状の突起（７）や環・吸盤のような掛け具をつけた容器の吊り下げ具。

【請求項 2】

滑り止め材（２）を備えている帯の裏面に、互いに係合するフック（５）とループ（６）の面ファスナー係合素子を備えた請求項 1 の容器の吊り下げ具。

【発明の詳細な説明】

10

【技術分野】

【技術分野】

【0001】

本発明は、哺乳瓶・ペットボトル・コップ・水筒・のような内部を布巾で、拭いて乾燥させることのできない口の狭い容器の吊り下げ具に関するものである。

【背景技術】

【背景技術】

【0002】

20

ジュース、お茶、コーヒーなど飲料水の容器の場合には、こぼれ難く且つ飲みやすくするために、容器の飲み口が小さくなっている。しかし、使用した都度洗浄乾燥させるため下向きに置くが、容器の飲み口が乾燥かごに接触したままになる。この場合、容器の中の水分が流れ出し、飲み口の部分が乾燥かごに接触した状態で湿った状態が続くことになる。このために、容器自体の形状について、改良を行うことで対応する文献が出されている。

【0003】

【特許文献】（特許文献 1 特開 2004-181170 広報）（特許文献 2 特開 2001-309841 広報）（特許文献 3 実開平 1-56762 広報）（特許文献 4 登録実用新案第 3063162 広報）（特許文献 5 特許第 2955852 広報）（特許文献 6 実開平 1-177980 広報）（特許文献 7 実開平 2-2067 広報）（特許文献 8 実開昭 57-18981 広報）

30

文献は、取っ手のあるコップや、容器の底にハンガー形フックを取り付けるなど容器の形状自体を工夫して容器を乾燥させるものであり、既成の市販容器に対応したものではない。

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【0004】

本発明は、以上の実情に鑑み提案されたもので、容器本体の形状を問わずに容器を吊り下げて、これら容器の水切りに手間をかけずに、衛生的に自然乾燥を早めカビや汚れの付着を防ぐ吊り下げ具の提供を第 1 の目的とする。

40

【課題を解決するための手段】

【0005】

本発明は、径の異なる種々の容器に対しても自在に適応できる吊り下げ具の提供を第 2 の目的とする。

【0006】

本発明は、保管場所をとらず、持運ぶ際にも嵩張らず携帯可能となる吊り下げ具の提供を第 3 の目的とする。

【課題を解決するための手段】

【0007】

50

柔軟な帯（１）の片面に滑り止め材（２）を設ける。そしてその一端を環（３）に縫着する。一端を環にした紐（４）を柔軟な帯（１）に、数箇所通し、もう一端にＪ形鉤（７）又、カラビナ、吸盤などを取り付けて、どこにでも吊り下げられる様にしたもの。

本発明は、以上の構成からなる容器の吊り下げ具である。

【発明を実施するための最良の形態】

【０００８】

以下、本発明の実施の形態について説明する。

（イ） 柔軟な帯（１）の片面に、滑り止め材（２）を径の異なる種々の蓋の外周面にピッタリ沿わせるため、帯の柔軟性を損なわない範囲で塗着する。図１、図２、図３ＡＢ、図４の（２）参照

（ロ） 柔軟な帯（１）の一端を環（３）に縫着する。中央に支軸を備えている環を使用することもできる。図１、図２、図３ＡＢ、図４の（３）参照

（ハ） 一端を環にした紐（４）を柔軟な帯（１）に、数箇所通し、もう一端にＪ形鉤又、カラビナ、吸盤などを取り付けて、どこにでも吊り下げられる様にしたもの。Ｊ形鉤は図１の（７）参照。

本発明は、以上のような構成で、これを使用するときは、環（３）に接続された柔軟な帯（１）の滑り止め材（２）側を容器の径（８）に密着させながら捲着する。図１参照

そして、帯（１）の環（３）に逢着されていない端を環（３）に挿し通す。図１参照

帯の滑り止め材（２）を備えている側の裏面にフックとループの機能を備えた面ファスナー（５）を設けている場合は、環（３）から帯（１）を折り返して、蓋の外周と折り返し部の面ファスナー（５）をしっかりと掛け合わせる。図４参照

面ファスナーを使用しない場合は、環（３）に支軸があるものを使用して、一度、支軸に帯（１）をかけてから、帯（１）を折り返す。

そのあとで、Ｊ形鉤（７）を、都合の良い場所へ掛けて、容器を真っ逆さまに吊るす。

【発明の効果】

【０００９】

従来のように、容器の形状自体に工夫がされていなくても、現実に市販されているさまざまな形態の容器を吊り下げることができ容易に第１の目的を達成できる。

自在にサイズ適応が可能のため、一つ所有するだけで、さまざまな径の容器を吊り下げることができる。これにより第２の目的を達成できる。

単純な構造であるため、大きさも嵩張らず、持ち運びにも便利で外出先に携帯しやすくなった。これにより第３の目的を達成できる。

【図面の簡単な説明】

【図１】 本発明による容器の吊り下げ具の使用状態を示した斜視図である。

【図２】 本発明による容器の吊り下げ具の帯（１）を示した斜視図である。

【図３】 Ａ本発明による吊り下げ具の帯（１）の正面図である。Ｂ本発明による容器の吊り下げ具の帯（１）の側面図である。

【図４】 本発明による容器の吊り下げ具の帯（１）を示した斜視図である。

【符号の説明】

- １ 帯
- ２ 環
- ３ 滑り止め材
- ４ 紐
- ５ 面ファスナーフック部
- ６ 面ファスナーループ部
- ７ Ｊ形鉤
- ８ 容器本体

10

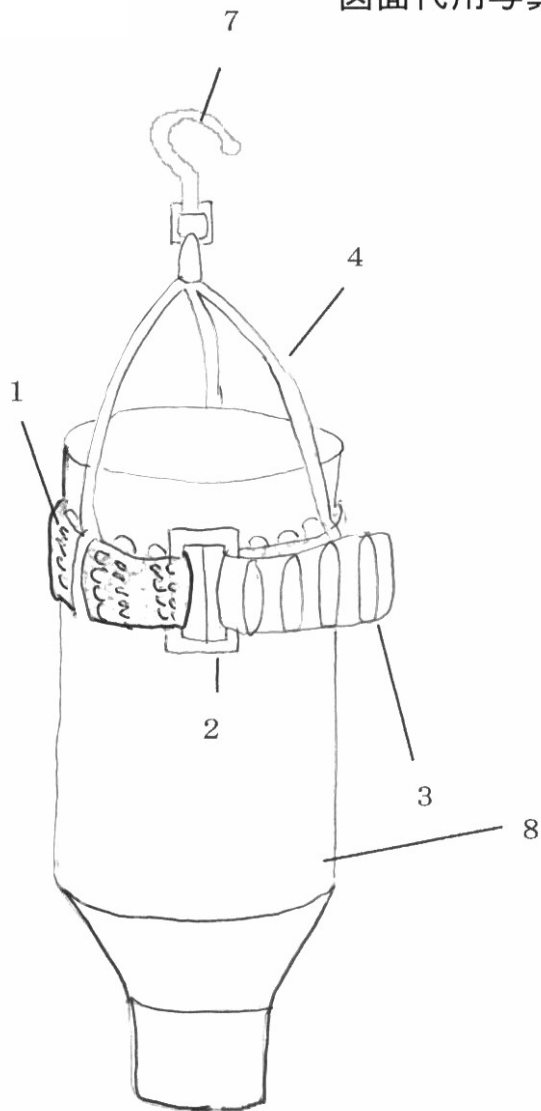
20

30

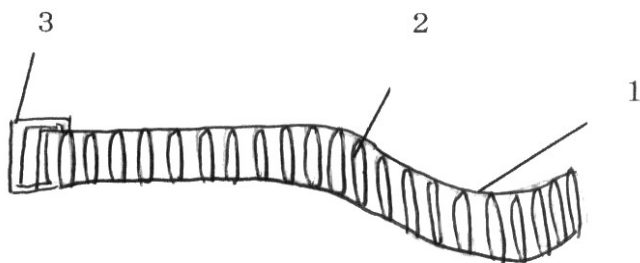
40

【図 1】

図面代用写真(カラー)

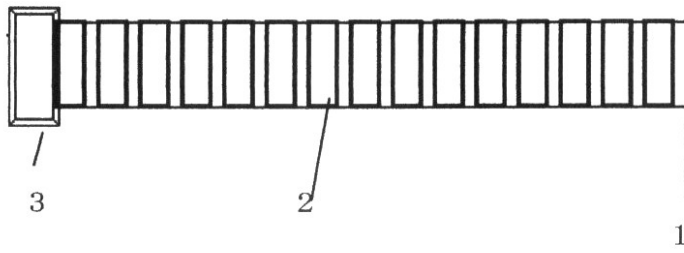


【図 2】

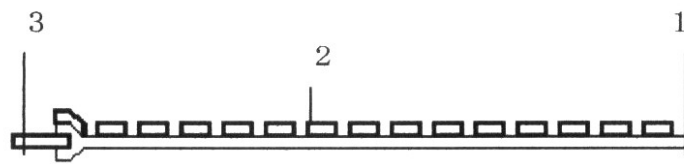


【図 3】

A



B



【図 4】

